

## 第2学年 総合的な学習の時間 学習指導略案

日 時 平成29年11月30日(木)

対 象 2年A組 男子15名 女子7名 計22名

指導者 村口明子 工藤信子 山邊紀子

### 1 単元名 「地域の産業」を追究する(45時間)

教材名 ふるさとの活性化を考えよう～(仮想)十和田のアンテナショップのオープンに向けて～(2・3/6時間)

### 2 単元および教材について

本校では、総合的な学習の時間において、様々な情報に触れさせることで興味・関心を喚起し、生徒自身が課題を見つけて取り組むことを重視して学習を進めている。今年度は、修学旅行でのふるさとPR学習に向けて、十和田市のよさを観光地・野菜の魅力・ふるさと納税・「アートのある街づくり」の観点から調べたり、見学や体験をさせたりして地域への理解を深め、地域の方の熱い思いを受け止める学習を充実させてきた。そして、修学旅行では東京にある青森県のアンテナショップを訪問し、調査活動を通して学びとった内容をポスター等の自作のPRツールに仕立ててPR活動を行った。この経験により、生徒たちは将来この地域を支える人材として、十和田市への理解や地域の一員としての思いをさらに深めることができた。

「地域の産業」の単元のまとめとなる本教材では、ふるさとPR学習を終え、地域のよさをさらにPRするアイデアとして、十和田のアンテナショップをオープンする企画を考える。集めた情報や経験を振り返りながらふるさとの活性化について考える学習を通して、郷土に主体的にかかわっていかうとする態度や自分たちの生活に生かしていこうとする実践力を養っていききたい。

### 3 本時の計画

#### (1) 目標

十和田のアンテナショップ開設のためのアイデアについて、資料で調べたことやこれまでの学習をもとに思考ツールを用いて根拠を明らかにしながら推論し、地域活性化の効果の高いものを序列化することによって、ショップ開設に向けた店舗イメージの見通しをもつことができる。

#### (2) 身に付けさせたい学習スキル

①主体的な学び オ 振り返って次へつなげる      ②対話的な学び キ 協働して課題解決する

③深い学び      ア 思考して問い続ける

十和田のアンテナショップ開設に向けて考えることで、これまでの学習で得た知見と地域を活性化させようという思いを結び付けながら、さらに良いアイデアを考える力や生み出そうとする姿勢を身に付けさせたい。

#### (3) 展開

段階	学習内容と学習活動	指導者のはたらきかけ	評価・留意点
課題設定	<p>1 前時の学習を振り返る。 「青森は県の魅力度ランキングでは17位だったが、アンテナショップの売上はランク外だった」「売上が上位の岩手銀河プラザには、取り入れたい工夫の視点がたくさんあった」 岩手銀河プラザの資料から考えたショップ活性化のアイデアについて、前時のワークシートを見て振り返る。他班のアイデアも見て回る。</p> <p>2 アンテナショップとはそもそも何かを確認する。 田子町が開設したアンテナショップのHPを見て、市町村単位でもショップを開設できることに気付く。</p>	<p>1 県の魅力度ランキング(青森は17位、岩手は34位)とアンテナショップの売上ランキング(岩手はベスト5、青森はランク外)の確認をする。岩手銀河プラザの資料から考えたショップ活性化のアイデアを、前時のワークシート「フィッシュボーン」を見て振り返らせる。</p> <p>2 情報の受信・発信を目的とした店舗という意味で、地方と都市を結ぶ目的があることを確認する。 市町村で開設したショップとして田子町の事例について示す。</p>	<p>・電子黒板(BigPad)で資料を提示する。</p> <p>[主 オ 振り返って次へつなげる]</p> <p>・BigPadで田子町のショップのHPを提示する。</p>

情報の 収集	3 東京で行ったアンケート結果を見る。「十和田の商品を知らない人が多い」「もっと知って買ってほしい」	3 修学旅行でのPR活動で行ったアンケート結果を示し、十和田の認知度上昇への意識付けを図る。	・PR活動でのお客さんの反応も思い起こさせる。
	4 課題を設定する。	4 課題を提示する。	
整理・ 分析	十和田のアンテナショップのオープンに向けてアイデアを出し、企画会議をしよう！		
	5 ふるさとPRの資料や iPad 内の岩手銀河プラザの写真を見て、2つの観点からショップ開設に向けたアイデアをグループで話し合う。 ①前時のワークシート「フィッシュボーン」で1位に選んだ観点的なイメージ ②ふるさとPR活動において自分がテーマに取り上げた十和田のよさやおすすめのもの・こと	5 ショップ開設に向けたアイデアについて話し合わせる。 資料をもとに、これまでの学習で得た情報や自分で調べたことを踏まえて考えさせる。 例 店頭販売 店頭で試食品を作り、お客様を引き付け、「十和田の食財弁当」を販売する。ヒメマスの天井にごぼうの漬物を添え、生産者さんの思いを伝えたい。	【評価①】 ショップ開設に向けたアイデアを、根拠をもって考えワークシートに書くことができる。 〔対 キ 協働して課題解決する〕
ま と め・発 表	6 ワークシート「キャンディーチャート」に、アイデアと効果(結果)、その根拠について書く。	6 ワークシート「キャンディーチャート」を用いてアイデアの効果や根拠まで考えさせる。	【思考ツール：キャンディーチャート】
	7 十和田のアンテナショップとしての役目を果たす効果が高いと考えられる順に、キャンディーチャートを序列化する。 さらに、1位に選んだアイデアの根拠となる資料を選び、チャートとともにミニホワイトボードに貼る。	7 キャンディーチャートを、効果の高い順に序列化させる。単なるショップの売上だけでなく、十和田と東京を結ぶショップとしての役目に目を向けさせ、効果を考えさせる。	【評価②】 ショップ開設に向けたアイデアを、効果の高い順に序列化して考えることができる。
	8 キャンディーチャートと資料を書画カメラで写し、各班で1位に選んだアイデアを発表する。iPad内の岩手銀河プラザの写真はBigPadで見せながらアイデアの効果や根拠を説明する。	8 キャンディーチャートをスクリーンに映しながら、1位に選んだアイデアについて数班に発表させる。書画カメラとBigPadを操作し、わかりやすく発表させる。	・ICT支援員のサポートによりiPadやBigPadの操作をスムーズに行う。 〔深 ア 思考して問い続ける〕
	9 振り返りを行う。	9 振り返りをさせる。	
<p>(例) キャンディーチャートに書くことで、十和田に良い効果が生まれるように考えながらショップ開設のアイデアを考えることができた。ただ案を出すだけでなく、根拠をもって考える力が身に付いたと思う。他の班の発表にも良いアイデアがあったので、参考にして企画をまとめていきたい。</p>			

【キャンディ・チャート】

